

みんなで考えよう！函館の温泉資源

～函館市温泉資源保護指針のあらまし～

市立函館保健所生活衛生課

〒040-0001

函館市五稜郭町23番1号

函館市総合保健センター3階

TEL 0138-32-1521

FAX 0138-32-1505

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/hokensyo>

函館市

1 指針策定の趣旨

長い歴史のある函館の温泉は、市民生活に重要な役割を果たすとともに、観光を中心とした経済活動においても貴重な資源となっております。

この市民にとって貴重な財産である温泉資源に枯渇などの事態が生じないよう、現在の資源状況を十分に踏まえた適正な利用が、必要となっております。

しかし、すでに湯の川温泉では源泉水位の低下など資源の枯渇が懸念され、さらに市内各所では新しい温泉開発が進んでいる現状から、市は温泉資源の保護や適正利用を進めるため、温泉資源の枯渇が懸念される旧函館市域（東部4支所の所管区域を除く区域）を対象に平成22年6月に「函館市温泉資源保護指針」を策定しました。

今後はこの指針に基づき、貴重な資源を有効に利用した活力にあふれ健やかに暮らせるまちの実現に向け、温泉事業者や市民の方のご理解やご協力を得ながら必要な対策を進めていこうとするものです。



2 温泉資源の利用状況

旧函館市域にある源泉数は、現在84箇所、このうち利用されている源泉は、谷地頭地区1箇所、湯の川地区34箇所、その他29箇所の64箇所となっております。

温泉を利用している施設数は、谷地頭地区5箇所、湯の川地区85箇所、その他19箇所の109箇所、これらの内訳は、公衆浴場が24箇所、旅館45箇所、福祉施設6箇所などとなっております。

(1) 源泉数

源泉数		84 箇所	利用源泉数		64 箇所
内訳	谷地頭	2 箇所	内訳	谷地頭	1 箇所
	湯の川	38 箇所		湯の川	34 箇所
	その他	44 箇所		その他	29 箇所

(2) 温泉利用量

		施設数	利用量 (m ³ /日)	構成比 (%)
地区区分		109 箇所	13,235	100.0
内訳	谷地頭	5 箇所	475	3.6
	湯の川	85 箇所	6,487	49.0
	その他	19 箇所	6,273	47.4

(3) 温泉利用施設数

		施設数	利用量 (m ³ /日)	構成比 (%)
施設区分		109 箇所	13,235	100.0
内訳	公衆浴場	24 箇所	5,700	43.1
	旅館	45 箇所	4,951	37.4
	福祉施設	6 箇所	542	4.1
	病院	2 箇所	80	0.6
	その他	32 箇所	1,962	14.8

※データは、平成18年度温泉利用状況報告書および平成19年度利用許可申請書による。

3 温泉資源の分類および現況と課題

本指針では、北海道立地質研究所（現：地方独立行政法人北海道立総合研究機構・地質研究本部地質研究所）による化学組成、温度分布などの調査結果を基に、地理的分布状況から大きく3つの温泉群に分類し、次に掲げる名称としました。

函館市の温泉

①【横津銭亀沢温泉群】

横津銭亀沢温泉群は、湯の川温泉を中心とする「銭亀沢火山温泉群」と湯の川温泉から北西方面に分布する「横津山系温泉群」に分類されます。

②【中央部温泉群】

函館駅周辺の限られた範囲に分布し、温泉付きホテルなどの建設により近年利用量が増加しており、源泉相互の影響が懸念されています。

③【谷地頭温泉】

資源量と利用量のバランスが保たれ自噴している状況にありますが、今後とも慎重な資源管理が求められています。

①-1【銭亀沢火山温泉群】

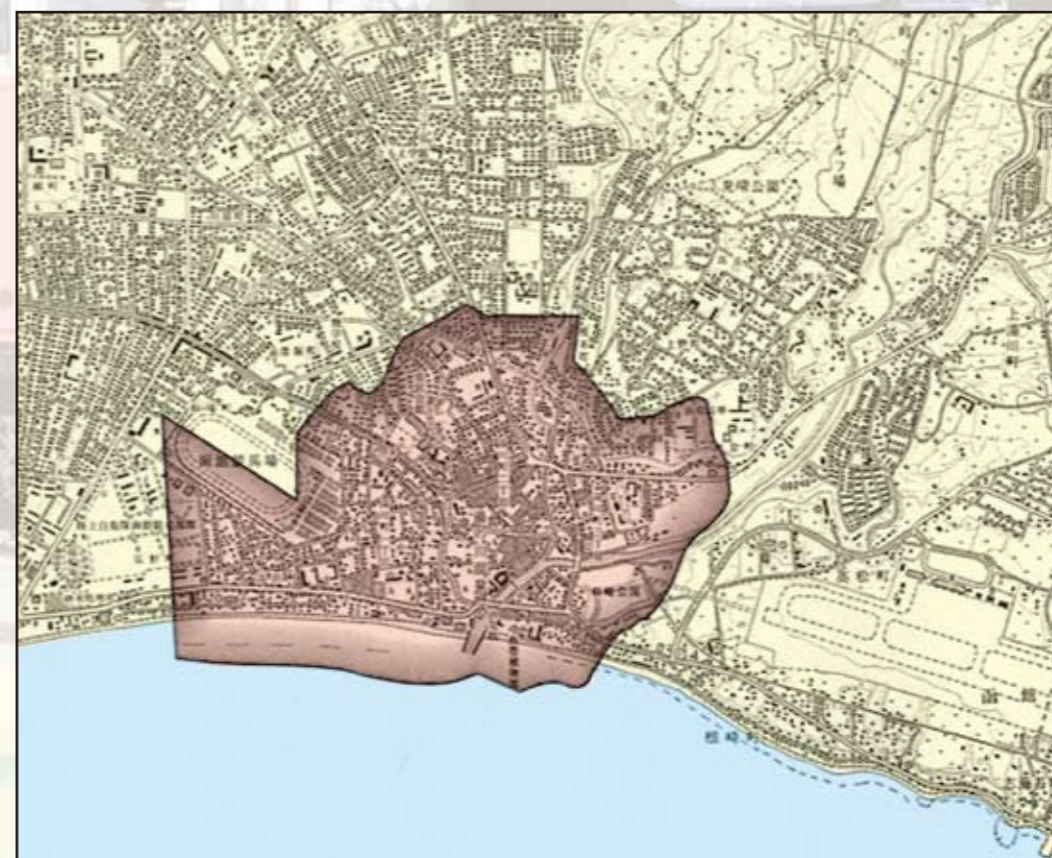
湯の川温泉を中心とする温泉群で、以前は自噴していましたが、現在では動力により温泉を汲み上げています。昭和51年に北海道の温泉保護地域に指定され新規温泉掘削が制限されていますが、源泉水位の低下など資源衰退の兆候が見られることから、利用量の削減が求められています。

①-2【横津山系温泉群】

湯の川温泉から北西方面へ広範囲に分布する温泉群で、近年、掘削・開業した大型浴場が集中し、1源泉あたりの利用量も多くなっていますが、十分な利用状況の把握がなされていないため、湯の川温泉との関連性などについて専門的調査が必要となっています。



温泉資源の分布



温泉保護地域詳細図

4 温泉資源保護に向けた取組

市民にとって貴重な財産である温泉資源を、将来にわたり長く利用できるよう後世に引き継ぐことが私たち市民の責務であり、温泉資源保護に向けた取組を速やかに進めることが重要となっています。

温泉法に基づく掘削許可等の権限は北海道の所管ですが、函館市にとって温泉資源保護は重要な課題であり、市が主体的に取組を進めることが必要なことから、次に掲げる項目を重点的に推進します。

温泉資源利用状況の把握

湯の川温泉および谷地頭温泉以外の源泉では、これまで資源状況に関するデータ収集や蓄積がほとんど行われていないため、源泉所有者の協力を求めながら、利用状況などの調査やデータ収集を行い、資源状況の把握に努めます。

温泉利用量の削減

資源の衰退減少が見られる湯の川温泉では、湯の川地区としての適正湯量となるように利用量の削減を進めることや、その他の地区でもより効果的な温泉利用に努めます。

新規温泉掘削の抑制

温泉資源は無尽蔵に利用できるものではなく、資源量とのバランスのとれた利用が必要なことから、新たな温泉掘削が増えすぎないように努めます。

温泉資源保護に関する情報

温泉資源保護のためには、行政や事業者だけでなく、市民全体での取組が必要となりますので、情報をできるだけ提供し、市民意識が高まる取組を積極的に進めます。

また、近隣自治体に対して資源調査に基づく情報を提供し、広域的な資源保護について協調した取組ができるように努めます。

温泉資源の有効利用の推進および研究

健康の維持増進を目的とした温泉利用について検討を進めるとともに、温泉群ごとに異なる泉質の温泉が利用されている特色を生かし、泉質の違いによる温泉浴の効能などに関する知識の普及、宣伝等を通じて、函館観光の魅力の一つである温泉の一層の有効活用に努めます。

